

さっぽろ地域コミュニティ検討委員会 第2回会議

会 議 録

日 時：平成27年12月17日（木）16時開会
場 所：道民活動センター「かでの2・7」7階705研修室

1 議事

(1) 地域コミュニティの現状と課題について（前回の振り返りと補足説明等）

○事務局（福澤市民自治推進課長）

それでは定刻となりましたので、ただいまからさっぽろ地域コミュニティ検討委員会第2回会議を開催いたします。

前回、第1回目の会議では、本会議の目的やスケジュールの概案など会議の大枠を示させていただいた後、札幌市の現状や地域コミュニティについて、認識の共有化という意味も含めて事務局からご説明をさせていただき、ご意見をいただきました。本日は、前回の会議の簡単な振り返りを行った後に、地域課題とそれに対応する地域のあり方や各団体の役割などについて議論をいただきたいと思います。

本日は、天気も悪く、場所も遠いところに来ていただきまして、誠にありがとうございます。議論が白熱いたしますと、終了時間が延長することが想定されますが、委員の皆様には本会議終了後、ご予約がある委員の方もいらっしゃると思いますので、本日の会議では18時終了を目途としまして、ご意見出しを17時50分頃には終了いただきたいと考えております。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、さっそく議事に移りたいと思いますので、鈴木委員長お願いいたします。

○鈴木克典委員長

本日は足元の非常に悪いところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。私のほうで議事を進行させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、先ほどもお話ございましたように、今回は2回目の会議でございます。お手元の次第に従って進めて参りますが、はじめに議事の一番目になりますけれども、前回の振り返りと補足説明を先にさせていただいて、今回のテーマでございます地域課題と地域コミュニティの担うべき役割とあり方について、意見交換させていただければと思います。まず、意見出しに入る前に、配布されている資料に沿って事務局より前回の振り返りをお願いいたします。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

それでは事務局から説明させていただきます。まず、一番左上のところに「地域コミュニティの現状と課題について」という資料に基づいて説明させていただきます。こちらの資料は前回の振り返りの資料となっております。簡単にご説明させていただきます。

まずはじめに、前回の会議では札幌市の人口の現状について説明いたしました。人口については、これまでの増加傾向から、将来、人口減少に転じると推計されております。また、高齢化率は、平成47年に3人に1人以上が高齢者になると推計されており、平成32年には8世帯に1世帯が高齢の単身世帯になるという推計を紹介いたしました。また、区別の人口についても、区によってさまざまでありまして、中央区のみが増加傾向にある一方、別の区ではもうすでに減少傾向に転じているということをご説明いたしました。次に将来推計人口と高齢化、人口密度というかたちで、地域別の高齢化は、高齢人口比率30%強の地区が平成32年には全体の3分の1以上となる32地区に拡大するとの推計もご説明させていただきました。

これらの人口減少、高齢化に伴う課題といたしまして、やはり地域の課題が多種多様化、複雑化しているとお話をさせていただきまして、こういった地域課題の多様性、そして複雑化に対応するためにはどうすればいいかというお話をさせていただきました。多様性については、行政の

みでは対応・解決が困難な課題の増加が懸念され、公助だけではなく自助・互助・共助という連携についての重要性が増している。そして複雑化については、より専門的な知識・スキルを要する課題の増加が懸念され、地域の人材、活動主体が保有するさまざまな知識・スキル、効果的な活用の必要性などが考えられるのではないかとのご説明いたしました。これをもとに、右の図に移りますけれども、地域の互助・共助活動をするさまざまな役割、機能を担う地域コミュニティの活性化が必要ではないか、そして、町内会をはじめ、さまざまな知識・スキルを有する地域の多様な人材、活動主体のネットワークが必要ではないかという説明をさせていただきました。

一方で、札幌市の地域コミュニティの現状というのはどういうふうになっているかというお話です。まず、前回の会議で確認いたしましたが、「コミュニティ」とは「地縁、血縁、文化的背景、そして価値観などに基づく共同体。そのうち地縁的な要素が大きいものを「地域コミュニティ」というふうに定義しております。地域コミュニティを構成する団体ですが、さまざまな団体がありますけれども、サークル・NPOなどの「テーマ型コミュニティ」と、町内会などの「地縁型コミュニティ」と、大きくそういうコミュニティに分類されるのではないかとのお話をさせていただきました。また、各団体の特徴を大きな表に基づいて、町内会・マンション管理組合・PTA・NPO、それぞれが一定の活動を担っている地域の団体であるというご説明をさせていただきました。また、札幌市では、地域コミュニティのネットワークというかたちで、連合町内会をはじめといたしまして、まちづくり協議会、そして各種協議会などが連携しているというご説明をさせていただきました。

次にコミュニティの状況ということで資料の右側に移ります。地域コミュニティに対する市民意識ということで、この委員会の中でも町内会はもちろんその中核だろうというお話をいただいておりますが、アンケート調査による市民意識においても、地域コミュニティの重要性・必要性の認識が高い結果となっております。そして、地域コミュニティの担い手としての期待が強い。また、町内会に対する地域の課題解決、問題解決の期待が強い。また、町内会の特性といたしましても、先ほどいろいろな団体があるというお話をいたしました。一定の区域を面的にカバーしている。一つの分野ではなくて暮らしに対する多様な分野を包括的に関わっている。また、多くの世代が関わっている。そしてまた、行政機関との関わりにおいて地域の代表性を有しているということから、町内会は地域コミュニティの中核的な役割を担っているという整理となりました。

さて、次にその町内会はどうなっているかというお話です。町内会の現状は、みなさんご存じのとおり、町内会加入率は低下しております。ただ、一方で加入世帯は増加しております。特に若い世代の加入率が低いというかたちになっております。また、別の表でご説明いたしましたが、その加入率を見てみると、賃貸共同住宅が多い地域は加入率が低い。また、賃貸共同住宅が少ない地域、いわゆる持ち家が多いところは加入率が高い傾向が見られました。次に町内会側の運営の課題。これもみなさまご存じのとおりなのですけれども、役員のなり手が不足している、特定の人しか行事に参加しない、役員が高齢化している、活動の担い手不足が大きな課題となっている、こういったものを改めて整理させていただきました。また、地域の連携というお話をいたしましたが、特にNPOだとか民間企業との連携が少ない状況ということも確認いたしました。こういった地域課題の多種多様化・複雑化といったものについて対応するためには、多様な主体と

の連携が必要ではないかということで整理をいたしました。

そして、最後に、地域課題と町内会活動といたしまして、高齢化や参加者の固定化に伴う高齢者の負担増への課題認識が高く、それを解決するためには他の組織との連携が重要。そしてまた、高齢者の引きこもりが地域課題になっているのではないかということがございました。以上が前回の会議の説明となります。

ここまでが前回の会議の振り返りですが、次に、12月19日に行うワークショップについて、その概要のご説明をしたいと思います。目的は、町内会を中心に地域コミュニティのあり方、そしてその活性化の促進に関して、幅広い世代の市民の意見を把握するためのワークショップとなります。日時は12月19日の土曜日、13時から16時です。後ほど改めてご案内いたしますけれども、委員のみなさんも見学可能となっておりますので、よろしくお願いいたします。今回、無作為抽出で2,000人に案内を送りまして、60数名から応募がありまして、30名ほどでワークショップ形式で行うようなかたちとなっております。テーマは、札幌の地域コミュニティと町内会というかたちで、地域における課題とあるべき姿に対する市民意識の把握。そして、一般市民が考える「市民」「町内会」「市民活動団体」「企業・事業所」のそれぞれの地域コミュニティの役割を抽出いたしまして、各主体が役割を担っていくために行政に求められることを把握することを目的としております。

ワークショップなのですが、具体的にどういったかたちで行うかということをご説明いたします。まず、我々のほうから地域課題等について情報提供を行います。そして、ワークショップ①というかたちで、地域課題とあるべき姿。右のほうにちょっと図を書いていますけれども、それぞれの高齢者、子育て、災害対策だとか、そういった項目に対して具体的な課題、子育ての孤立だとか、災害時の対応だとか、そういったものを提示しながらあるべき姿のほうをまず議論していただこうと思っています。そして次に、ワークショップ②というかたちで、地域コミュニティの活性化に向けた役割を議論するかたちになります。こちら、検討の視点右のほうに出ていますけれども、「人材」「活動」「連携」「財源」「その他」と検討の視点がありまして、それぞれの活動主体「市民」「町内会」「活動団体」「グループ」「企業・事業所」。それぞれが何ができるかということを検討していただきます。上のほうで具体的な課題に対してあるべき姿があって、下のほうでは、あるべき姿に対して各団体が何ができるかという議論をしていただきます。こちらは、「ワールドカフェ」のような手法を使いまして、たくさん意見を出せるように各テーブルを何回か回るようなかたちで進めていければと思っております。そして一番最後にワークショップ③では、一番最初のグループに戻って、その各団体のグループで出された意見をより詳しく見ていくというようなかたちで進めていければなというふうに考えております。こちらが明後日12月19日に行われる市民を対象としたワークショップのお話です。

次に、右のほうに目を移していただきまして、2月20日に今度は町内会役員を対象としたワークショップの実施を検討しております。まだ詳細は調整中なのですが、一般市民から得られる結果と町内会役員から得られる結果はそれぞれ違ってくると思いますので、こちら調整次第次回の会議等で詳しくご説明できればと考えております。

次に、前回委員長のほうからお話がありました町内会に関するアンケートについてです。平成22年と平成18年に全単位町内会の会長さんに対して、町内会の基礎的な状況だとか、町内会の在るべき姿、活動の活性化などについて把握するためにアンケート調査を行っております。こ

れを、本委員会の検討材料にもなるように行おうというふうに思っております。ちなみに、お手元にいくつか資料のほうをご用意している中で、町内会・自治会に関するアンケートというものがあろうと思います。こちらが平成22年3月に行ったアンケート項目で、こちら結構な分量になっておりまして、これを市内2,200の単位町内会の会長さんに送って、回答してもらったというかたちになっております。また資料のほうに戻っていただきまして、このアンケートの構成、項目、調査項目(案)というふうになっていますけれども、「町内会の概要について」「町内会の活動について」「市との関係について」そして一番下の「会長さんご自身について」というところですね。そういったことが、定点観察と申しましょうか、できれば前回結果の比較のためにも同様の項目にできればと思っております。この★印、太字で書いてあるところなのですけれども、「地域コミュニティと町内会について」というところを本委員会を踏まえて新しく項目を追加できたらと考えております。後ほど、こちらについてもご意見いただければと考えております。

次の資料に進んでいただきまして、前回の会議で連合町内会と単位委町内会の違いについてご質問がありまして、小角のほうから回答をさせていただいたのですけれども、それをより見やすくした資料になっております。まず、札幌市の連合町内会と単位町内会という題がありまして、連合町内会なのですけれども、一定の区域内にある単位町内会・自治会が一つのまとまりに組織されたもの、これが連合町内会。そして、面的エリアにおいて、各種団体との連絡調整、地区住民との親睦、福祉の推進、共益活動、地域課題の解決の役割を担っております。また、単位町内会の会長などの代表者等が連合町内会の役員を担っているところが札幌市では多いです。具体的に図にいたしました。下のほうに単位町内会と書いていますけれども、一定の範囲で地域住民により役員を構成されております。下のほうに区切られているのが、いわゆる単位町内会のイメージです。例えばこの青い人が代表者、単位町内会の会長さんのイメージです。これらを面的にカバーしているものが上のほうになっておりまして、上下はないのですけれども、そこが連合町内会になっております。単位町内会の会長さんなどが連合町内会の役員を担っていることが多いということもご説明しましたとおり、この単位町内会の青い人たちが連合町内会の役割を担っていることが多く、こういった連合町内会のスケールメリットを生かしたまちづくり活動を行っております。一つの単位町内会ではなかなか難しい地域課題の解決や、大規模なお祭りや運動会などの地域行事の開催を行っております。それから、単位町内会の情報収集と伝達。市や単位町内会の情報の伝達だとか、あと単町の活動促進のためのノウハウの提供。まさにこちらについて、山内会長が前回お話しいただいたところだと思います。そして、団体との連携ですね。こちら行政と緊密性があって、一定の目的を持った地域の関連団体との調整・窓口のほうを連町で行っております。また、各団体との効果的な連携を行っております。

札幌市の連合町内会はこういった組織なのですけれども、では他の都市はどのようなかたちの組織なのか、下にまとめてみました。代表的な例といたしまして、横浜市をあげてみました。基本的なものとして単位町内会が組織されており、各地区の連合町内会、各区の区連合町内会などが組織されております。一番大きな違いは、横浜市の例を見みると地区の連合町内会くらいから大きく行政が関わっている。つまり、連合町内会単位であまり地域の親睦だとか、地域で何かやろうかなとか、そういったことが札幌市ほど見られないというところですね。札幌市の場合は、町内会にもよりますけれども、連合町内会の多くは町内会役員によって担われておりますので、当然連町としていろんな行事だとか、単位町内会と協力したイベントだとかが実施されている。そ

れが他都市との大きく違うところかなと思います。

次に、右側に目を移していただきまして、前回もご説明いたしましたが、札幌市の地域コミュニティの組織とまちづくり協議会についてです。まちづくり協議会は、概ねまちづくりセンター単位で連合町内会をはじめとした地域のさまざまなコミュニティ組織や団体がネットワークされておりまして、地域課題に取り組む団体になります。連合町内会を通して、単町はまちづくり協議会にほぼ属しているようなものとなっております。そして、まちセンでは情報提供や支援を行うかたちとなっております。こちらは、やはり連合町内会、町内会は地域コミュニティの中核というかたちで中心にそえさせていただきまして。それを後方支援するのがまちづくりセンターというかたちでイメージ図を作らせていただきました。

少し早口になってしまいましたが、以上が前回の会議の振り返りと、今後行われる市民ワークショップ、町内会ワークショップの概要。そして、前回ご質問ありました連合町内会、単位町内会についての違いのご説明になります。以上です。

○鈴木克典委員長

ありがとうございました。連合町内会につきましては、前回の会議で話題になりましたが、ここまでわかりやすくまとめていただきまして、ありがとうございます。横浜市との比較もありまして、こちらも参考になるかと思っております。

前回の振り返りとワークショップ、アンケート、それから連合町内会についてご説明いただきましたけど、これに関しまして質問等ありますでしょうか。

○石村実委員

まちづくりセンターの重要性というのはよくわかります。札幌市の戦略ビジョンを見ますと、まちづくりセンターを充実・強化というのが載っていますよね。まちづくりセンターを自主的な運営にしようという動きもありますね。自主的な運営を重点としてまちづくりを強化する。あるいは現行のまちづくりセンター、いわゆる市の行政機関ですね。そこを中心とした戦略として重要視していくというようなことだったのか、分からない部分があるのですが、市としてはどのような方針を持っているか、確認したい。

○小角市民自治推進室長

まずビジョンにありますまちづくりセンターの充実・強化というのは、地域活動に対する支援機能を強化しようということで、これまでもやってきた元気なまちづくり支援事業だとかを使った地域課題に対応した事業。これをやるだけではなくて、さらにいまの取組だけではなくて、私ども前回もお話したかもしれないですけど、将来推計版の地区単位のいろんなデータを集めた地域カルテというものもございまして、そういうような情報提供を元に地域のこの先、地域が将来的にどういう姿になっていくのかだとかということ、データの的に提示をさせていただきながら、将来に向かってこの地域をどんなまちにしていこうだとか、あるいはそういう課題を解決するためにはどんな取組が必要だとか、そういった話し合いの場や、動きを支援していく。そういう情報提供なり話し合い、いろんな主体の方の話し合いを促進していくというところ。あるいは、さらにいま、区役所では福祉部門においても、これまでの業務担当制を地区担当制に変えていこうということで動いていますが、保健師さんは全員区役所にいますから、いきなり保健師さんが地域に行ってもスムーズに入っていく難しい場面も多々ありますので、そういうところの繋ぎの肝といいますか、そういう役割をまちづくりセンターとしては強化していくということでやってい

ます。

それとは別に、自主運営の話というのは、市として現状では意図的に増やしていくというふうには位置付けていません。あくまで、地域を主体としたまちづくりを進めていく上で、地域によって中核的な役割を担う人材が確保できるだとか、そういうような地域にとって選択肢の一つとして、究極の市民自治のスタイルとして自主運営制度というのを設けている。ですから、当然市の業務委託ということで発注いたしますので、いま言ったような行政との繋ぎだとか、地域での話し合いだとか、いろんな活動に対する支援ということは、基本的には担える体制を作っていたら、特にしっかりと地域の合意のもとまちづくりを進めるために自主運営をするときには、基本的には関係者の方が話し合いを事前にしていただいて、まちづくり活動ビジョンという、いってみれば当面の活動の指針のようなものをまず作っていただいて、それに沿って実現をするための事業費としては地域交付金というものを措置しながら、主体的に進めていただくというようなかたちをとっています。

ですから、まちセンの機能強化では直営・自主運営に関わらず、いまの活動の支援だけではなくて、先を見越した議論だとか、あるいは福祉などこれから顕在化してくるであろう課題に関わる区役所であったり、関係機関などと繋ぐ機能をもっと強化していきましょうということ。その方向として、直営を基本としながらも、地域の中で、自分たちでそういうものについて人材を確保して、自分たちで決めながらやっという地域においては、選択肢として自主運営という制度を設けています。

○石村実委員

よくわかりました。了解しました。

○鈴木克典委員長

本日、意見交換をメインで時間を取りたいと思いますので、質問のみとさせていただきますけど、他に何かございますか。よろしいでしょうか。そして1ページにつきましては、振り返りということですので、上手くまとめていただきましたけれども、2ページに関しましては、今週の土曜日に開かれますワークショップ、市民を対象としたものです。これにつきましては、定期的に考えまして、ワークショップで出された意見につきましては、次回の会議に反映させていただくということですのでよろしいですね。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

はい。

○鈴木克典委員長

また、2月のワークショップに関しましては、これは次回にはたぶん間に合わないかと思しますので、その後の会議で情報提供いただけるということですのでよろしいでしょうか。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

そのように報告させていただきます。

○鈴木克典委員長

あと、アンケートについてなのですが、これに関しましては、先ほどおっしゃられていたように、最新の状況を調べるものだと思いますが、せっかくの機会でもございますので、何かこういったことも重点的に聞いてほしいですとか、こういったこともアンケート項目として聞いてほしいですとか、そのあたり何かございましたら、この場を出していただきたいのですけれど

も、何かございますか。

○五十嵐秀子委員

私の地区特有なものかもしれませんが、私たちは町内会館というものを持っている単町はありません。それで、まちづくりセンターのそばにある集会所、その近くの町内会はそこで町内会会議をするのですが、離れた町内会は居酒屋さんとかお寺とか飲食店とかの空き時間とか、開店時間を伸ばしていただくとかでやっている現状です。やっぱり町内会会議をもう少し開きやすいかたちになればいいなとは思っているのですけれども、私たちの地域性もありますので、なかなかそういうのは難しいんです。その居酒屋さんもいつまで貸してくれるのかというのもいつも心配で、活動しておりますので。そういうところは、みなさんどのようにやっていらっしゃるのかなとか。よろしく願いいたします。

○鈴木克典委員長

会議ですとか、活動場所という意味で、自分らの活動場所とか。そのあたりの聞き方はいろいろとあるかと思うのですが、場所の問題ということですね。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

そうですね。既存の項目を整理して、可能であれば入れてみたいと思います。

○五十嵐秀子委員

いま、企業さんとコラボしてやられているというお話もありますので、企業さんの会社の空き時間とか、夜でも事務所使っているよと言われるとちょっとありがたいかなという思いもありますので。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

そうですね。もし他の地域でそういった事例があると自分たちの地域でも取り入れたいなという。わかりました。ちょっと検討させてください。

○鈴木克典委員長

そういった情報も含めてということですね。

○龍滝知佳委員

各町内会でさまざまなイベントなどを開催すると思うのですけれども、高齢者向けだったり子ども向けだったり、そういった活動の中で成功している事例ですとか、非常に有効的に活用できた内容ですとか、そういったものが具体的にわかると他の町内会にも反映していける部分があるのではないかと思うので、そういった項目があるといいなと思いました。

○小角市民自治推進室長

それにつきましては、「まちづくりのレシピ」という冊子をすでに作っておりまして、まちづくりセンターを通じて各地区の特徴的な取組を情報提供いただいて、実際に120くらい事例が集まっているんです。特に特徴的なものを30事例くらい選んで冊子にしたものがすでにあります。これは、市内すべての町内会長さん宛てにお送りをしているので、町内会長さんのところにありますし、まちづくりセンターにもあります。

まちづくりセンターに行きますと、所長は冊子に載っていないものも含めて120の事例を検索できるようにもなっていますので、その情報はあえて今度のアンケートには入れなくても、ある程度は蓄積できているかなと。

○鈴木克典委員長

他の媒体とかも含めまして、何かそういった参考になるような情報がございましたら、次回にでも情報提供いただければと思います。

○飯田俊郎副委員長

2つお願いがあるのですけれども、前にまちセンのカルテを作ったときに、町内会加入率を算出したり経年変化しようとしたときに、町内会ごとに算定の方法が違うということがわかってしまって、逆に公表できなくなりました。札幌全体としては下がっているのは間違いないのだけれども、この地域はどうなのかというのが比べづらいと。

できれば客観的に同じ物差しで加入率を測れるように質問をしていただいて、回答をいただくということができないかなと。自由に「加入率こうです」というのではなくて。会費を払っているかどうかとか、いろんなベースで比較、出されているようなので、そうじゃなく統一するようにしてほしい。

○山内睦夫委員

基本的には会費を払っている方がどれくらいいるかで加入率を測っている。

○飯田俊郎副委員長

そうですね。ただ、場所によって違うようです。同じ基準では出していないところもあるようです。

○小角市民自治推進室長

基本的には会費を払っている世帯ベースです。おそらく飯田先生がおっしゃられているのは集合住宅のカウントの仕方なのだと思います。全体で空き屋率を見越して、定額制にしたときに全体の戸数で計算するのか、あるいはその額を本来ある会費で割った数をベースとするのかという問題ではないかと理解しています。

○飯田俊郎副委員長

結構町内会によって数字が暴れるのです。なんでこんなに上がった、なんでこんなに下がったのだ、と聞いてみたら計算方法が違っていたというのが実際にあるので。

○山内睦夫委員

そういうことってというのは統一されているのではないですか。

○小角市民自治推進室長

基本的には、こちらから照会をかけるときに、考え方は基本的には会費を払っている世帯ベースで申告をお願いしますと言っていますが、ただ、申告するときの前提でそこら辺の考え方が中に盛り込まれている、盛り込まれていないところは我々では把握しきれないところがあります。

○飯田俊郎副委員長

今回は、そういうふうにはきちんとやってくださいねと確認をもう一度してほしい。

○小角市民自治推進室長

ただ、逆にいうと、経年変化でいえばその町内会についていえば、毎年たぶん同じ計算方法でやっているのです。

○飯田俊郎副委員長

いえ、ちょっと急に暴れたところがあって、加入率がドーンと上がっているところがあって、ここは何か画期的な町内会加入促進をやっているんだろうと思って、聞いてみたらそうではなか

ったというところが実際にあったので。

それが一つ目で、もう一つは、町内会費のところをどう見るのかなのですけれど、実はいま連合町内会で単位町内会から集めた町内会費を上納というか、出していく部分を削って、単位町内会に戻そうという動きが少し出てきているようで。それは、高齢者の人口の割合が増えてきたので、見守りとかは連町でやれることではなくて、単位町内会ごとだという話がいろいろ出てきている中で、だったら予算を単位町内会のほうに戻そうじゃないかという動きが多少出てきているようです。そういう、町内会費いくら集めていますというのは答えられるでしょうけど、それが自分の町内会で、単位町内会で使うものなのか、連合町内会のほうに出ていくものなのかというのをどのような動きになっているのか知りたいと思いました。

というのも、本当に今朝なのですけど、私が関わっている札幌市の郊外の間連町なのですけど、大きな連町というよりはその半分くらいのサイズのところで、大きな見直しが行われたと。私がやっているのは、福祉のまちづくりを応援していたのですが、もう連合町内会でやれるようなものではなくて、福まちで背負い込めるようなものでもなくて、単位町内会が動いてくれなきゃということ随分言っていました。そうしたら、それへの反応として、単位町内会からのお金を連合町内会に吸い上げるばかりだと脱退だと言い出す人も出るので、少し戻そうという話も。

○龍滝知佳委員

確かにうちの町内会も、もういいのではという話題は出ました。ただ、やはりお付き合いもあるので、まあとりあえず払っておくかと。結局、連町から単町にどのくらい返還されているのかというのが、具体的にあまり普段見えてこないの、単町での活動に重点的に充てたいという意見は、うちの町内会だけではなく結構ある。

○飯田俊郎副委員長

見えづらいというのは、質問してもすぐ簡単に答えが出ないかもしれないということです。

○山内睦夫委員

お金は上納だけではないですから、他にもどうしてもありますから。それといま言われたように、各単町がそういう催しやったらいいのではないかと。そうするとできるところとできないところが出てくる。それでは、やはり連合として対応を考えるのですよ。

例えば我々桑園地区では、ある地区では人数が少ないなど極端なのです。北一条通だと本当に世帯数がない。それこそ知事公館であったり、近代美術館であったり、气象台であったり、あそこはほとんど人がいないのです。かたや今度、隣の町内会は、これまた大変で一番人口が多くて。みんな勝手にやりなさいとなると、こちらの町内会は世帯数が多いのでお金があっても運営できるのです。じゃあこちらのほうはない。このときに、もう会長を選ぶのも大変な状態。そうではなくて、そういったところも連町として、できないこともこちらからぶんどってやるのではなくて、全体の予算の中でそういうところも応援してあげるとのことじゃないと、できるから単町だけでやれというのはこれ絶対無理。

○飯田俊郎副委員長

そういうことが、もしかしたらお金で何か客観的に確かめられるかと思って、質問項目って考えたんですけど、それ自体が目的というよりも、いまの連町と単町の間悩みごとというか、それを把握したいという意図もあって。

○山内睦夫委員

やっぱり、連町と単町の悩みごとというのは、手前どものことを言うのもなんですけれど、一切そういう悩みごとはないですね。やっぱり常にコミュニケーションを取りながら、常にお互いに会議をやって、それこそ一杯飲みたい人もいらっしゃるから、その中でいろんな交流を深めていくということを私は盛んにやっています。そこら辺は正直言って、なにもいまのところ問題はない状態でございますけれども。逆に、そういうことがあるのであれば、私どもも教えてほしいなというような状態ですね。

○鈴木克典委員長

その辺につきましては、この後のあるべき姿ですとか、担い手の話ですとか、その辺にも連携の話とかにも関わってまいりますので、そこでお話しいただければと思います。

まだまだご意見があろうかと思えますけれども、本日意見交換に時間を割きたいと思っておりますので、何かまたございましたらぜひ事務局のほうに個別に情報をお寄せください。私もあるのですが、あとで事務局のほうに申し上げたいと思えます。すべてがたぶん盛り込めるわけではないと思うのですけれども、少しバランスですとか、その辺はお任せしたほうがよろしいかと思えます。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

そうですね。各会長さんの負担にならない聞き方にしたいと思っております。その辺考慮すると、簡単な項目のほうがいいかと思えます。

(2) 地域コミュニティの担うべき役割・あり方（意見出し）

○鈴木克典委員長

それでは、ただいま前回の振り返りについてまとめていただきましたけれども、そういった現状を踏まえまして、今回のテーマでもあります「地域課題と地域コミュニティの担うべき役割・あり方」について意見出し、意見交換をしていきたいと思えます。

皆さんお分かりかと思えますけれども、地域コミュニティといえますと非常に幅広いテーマでもございますので、意見が拡散してしまいがちだと思えます。そういった懸念もございまして、参考資料を基に少し方向性を整理しながら進めてまいりたいと思えます。論点整理のためにも事務局でこういった資料をご用意いただきましたので、資料2につきまして事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

それでは、資料2「地域コミュニティの担うべき役割・あり方」についてご説明のほうをさせていただきます。背景につきましては、前回の会議、そして先ほどご説明したとおり、地域課題の複雑化・多様化というかたちで社会情勢が変わってきているという話になります。

地域課題・あるべき姿につきまして、すでに委員のみなさまは認識・共有されていると思えますので、こちらのほうで事例としてまとめさせていただきました。地域課題については、「高齢化・単身高齢者世代の増加」「子育て・教育」「災害対策」「地域コミュニティや連帯感の希薄化」ということで大きく分けさせていただきました。それが地域課題ですね。高齢化・単身高齢者の増加ということでは、高齢者の孤立化・孤独化。地域活動の担い手の高齢化。これらについてのあるべき姿というかたちで、本当に事例ですけれども、例えば交流の機会の増加や交流促進があればいいのではないかと、幅広い世代が参加しやすい環境づくりがあればいいのではないかと、こういっ

たあるべき姿がある。同じように、子育て・教育については、子育てママの孤立化、子どもを狙う犯罪・危険・いじめ等が発生している。これのあるべき姿といたしまして、交流の促進があったらいいのではないかと、安心して外で遊ぶことができる環境づくりがあればいいのではないかと。同じようなかたちで、災害対策については、自主防災機能の強化、避難所運営の困難という課題がある。これらについては、あるべき姿といたしまして、地域での支え合い体制の構築、また地域での避難所運営の仕組みづくりがあるべき姿なのではないかと。また、コミュニティの希薄化については、いまお話ありましたが、加入率の低下、そして地域活動の参加・担い手の減少という課題がありまして、これらについてあるべき姿といたしまして、当然ですけれども多くの世帯が町内会に加入することがいいのではないかと、多世代の住民が活動に理解・参加をしていただければいいのではないかと。みなさん共有されていると思いますので、述べるほどではないと思うのですけれども、こういったかたちでこれからの議論について整理させていただきました。以上です。

○鈴木克典委員長

はい、ありがとうございます。こうやってマトリクスで整理していただきましたけれども、地域課題がありまして、それらを解決するためのあるべき姿ということで、いろいろな地域課題についても類型して整理してまとめていただいております。

地域課題もいろいろと多様化しておりますので、この他にもいろいろとあろうかと思っておりますけれども、結構共通している部分について書いていただきましたので、これを踏まえまして、もう少しこういった点も重要でないかですとか、発表的なかたちで意見を出していただきたいと思いますが、みなさまいかがでしょうか。こういった視点も重要ではないかですとか、これに補足するようなかたちの意見があればお願いします。

○石村実委員

地域コミュニティにも関係することなのですが、実は私の住んでいる地域では世代間交流サロンを、私が主催して8年間やっております。これは当初、世代を超えた交流の輪を作ろうということで平成20年に開始したのですが、いまは厳密には高齢者の集まりになっています。高齢者の集まりは健康な方が結局参加されるわけですけれども、その都度参加者が変わってきていますので、面識率は非常に高まっています。そうすることによって、非常に人を知ることになって、これはいわば見守りにもなりますし、それから会ったら声を掛けるというような非常に良いプラスの面もあるわけですね。そういうことを現に続けておりますので、これからもこれをいかにして先まで続けられるかということのを常に考えながらやっております。内容的にいろいろ検討して、どうすればより多くの方が自由に参加できるのかと。こっちから参加しなさいではなくて、自発的に来てくれるというようなものを作っていこうということで、現在いろいろやっております。1年に数回、近くの児童館の子どもたち14～15人が1年に数回参加していただいております。また、1年に数回食事の提供もしております。それから、1年に何回か民謡の先生に来ていただいて、みんなの前で披露してもらったり、あるいはオレオレ詐欺の防止のために警察に来てもらって話をしてもらっている。あるいは、そういうような文化や芸能いろいろなことでその場を楽しんでもらう。そして、帰るときは楽しかったと。手伝うスタッフも楽しかったというような気持ちですとこの8年間続いています。

常にスタッフも研究はしています。何かをしてやるというのではなくて、自分たちのできるこ

とをやるのですと。ですから、決して無理のないようなかたちで実際に運営しています。そういうことでいままで8年間続いてきたのではないかなと思っています。これは孤立の防止にもなりますし、福祉活動にもなりますし、地域のコミュニティにも全部関わってくるのですが、そういう意味で現実に行っているところでございます。

ですから、このような団体をこれから今後、いろいろ連携して、もっと交流を深めて、他の地区でこういうことやっているんだと、そういう良いところをどんどん取り入れて、そしてより向上させていこうということではないかと。全てここに結びついてしまうのではないかなと思います。

○鈴木克典委員長

期せずにご意見を出していただいた感じなのですが、視点としては地域課題としてやはり、交流といますか、近所付き合いですとか、その辺の希薄化みたいな地域課題があって、それを解決する手段としてサロンですとか、そういったいろいろな活動があるのではないかとことだと思えます。少しご意見も出していただきましたので、2ページ目をご覧くださいますと、マトリクス形式のワークシートをご用意していただいています。たぶん、このあとの意見交換の際に、横軸が各主体の役割ですとか、縦軸にいろいろな地域課題ということでまとめていただいていますので、これを軸にということだと思えるのですけれども、このワークシートの説明をよろしくをお願いします。

○事務局（高橋地域支援担当係長）

いま鈴木先生からお話があったとおり、また石村委員さんからお話があったとおり、今回の一番大事なところ「地域コミュニティの担うべき役割・あり方」についてそれぞれ横軸に「市民」「町内会」「活動団体」「企業」「行政」をあげました。縦軸には、「人材」「活動」「連携」「財源」とあげたのですけれども、例えばいま、石村委員のお話からあったとおり、そういった課題、そしてあるべき姿のために町内会ができること、交流サロンだったりと思えます。そのように、それぞれ「市民」「町内会」「地域活動団体」「企業・事業所」それを支える「行政」がそれぞれの「役割・できること」をご議論いただければと思います。縦軸に「人材」「活動」「連携」「財源」とは書いたものの、こちらはみなさまの意見を集約いたしまして、あとできちんとそれぞれ分けてお示ししたいと考えております。

○鈴木克典委員長

先ほど申し上げましたように、地域コミュニティということで議論しますと非常に拡散してまいりますので、せっきく事務局でこのようなワークシートに整理していただきましたので、これを軸に皆さまからご意見をいただきたいと思っております。

皆さま、町内会ですとか、NPO、あと不動産団体などそれぞれのお立場で活動されていますので、それぞれのお立場でのご意見でも結構ですし、こういう成功例ですとか、関係ないことでも何か新たなご意見ですとか、アイデアですとか、その辺もお出しいただければと思っております。また、逆に違った立場で、例えば企業の方にもうちちょっとこういうふうに動いてほしいですとか、こういった協力をいただければうちちょっと活性化するのではないかと、そういった視点でもご意見を伺いたいと思えます。また、このワークシートに捉われなくても結構ですので、ご意見をお願いいたします。

○龍滝知佳委員

「町内会」「地域活動」「企業・事業所」のところになるかと思うのですが、まず町内会の行事・イベント等に関しては、町内会内だけで回覧板が回って終わってしまうということがございます。そういった中ですと、限られた年代ですとか、町内会に加入していない方には同じ地域に住んでいても情報が行き渡らないという点がありますので、その情報の拡散方法を少し見直していきまして、例えば隣の町内会、前後左右の囲まれている町内会にはお互いに回覧板を共有し合うですとか、私の場合は子どもが小学校に通ってますので、全校児童への町内会イベントのチラシの配布が認められております。そういったことで今年のイベントは小学校のほうから100名ほど参加がありました。せっかく札幌市は連町があるので、連町のほうにそういった一つの町内会でやることをみんなで共有しあって、全部連町でなくてもいいと思うんですね。隣近所の町内会で共有しあったらどうかというご提案を統一していただければと思います。うちの町内会では会長がよく隣の町内会に配りには行くのですけれども、もっと気兼ねなく情報の共有ができて、回覧板の貴重な情報が周知できるのではないかなという回覧板の有効活用による情報共有が進めばいいと思います。

あとは、私の場合は子育てが本業なので、その視点では、青少年部ですとか子ども会がない地区というのも非常に多々あります。私の町内会ではいろいろと活動しているのですけれども、隣の町内会の子ども会は何もやっていない。「いいないいな」と言って、隣の町内会からみんな来るのです。なので、まずはそういった町内会の中で、青少年部ですとか子ども会がない単町の発足のサポート、また、推進ですよ。ないところは、どうぞこれからのことを考えて子ども会、青少年部を発足するようにしてほしい。そのために、行政だったり、私たち民間のものであったりがサポートしますよという原案のようなものがあって、それが連町からみなさんに伝わっていくといいと考えています。

あとは、地元の企業も、やはり町内会に加入している人材というのは、ある意味、営業ターゲットですので、提携したいという思いは非常に強いと思います。ですので、過度な営利にならない程度の協賛ですとか協力というのを、もう少し発信することで町内会会費、活動費の確保ですとか、そういった周知ですよ。企業であれば企業にチラシが貼られたりとかして、あそこの町内会はこんな活動していますよというのが口伝いに伝わりますので、そういったところをもう少し力を入れてもいいのかなというふうに思います。

あとは、若者世代の加入というのがこれから難しいと思うのですが、私も小樽でコミュニティカフェをやっていたときに、小樽商大の生徒が自分たちもカフェやりたいということで訪ねてきましたので、「うちのカフェ休みのときにあんたたち好きにやりなさい」ということで週3回ほど貸したことがありました。そういう学生が自らやりたいという思いを持っているのは、もちろん札幌にもたくさんいると思うので、こういった町内会での、例えば若者イベント助成とか、うちだった「くさぶえ若者助成」とか、そういうものを作って町内会・地域への若者の関心をサポートしていく、そこで交流を生んでいくというやり方もあったらいいかなというふうに思いました。以上です。

○鈴木克典委員長

ありがとうございます。たくさんいいアイデアを出していただきましたけれども、質問と言ったら変ですが、青少年部とか子ども会の発足支援というお話ありましたけれど、何かこれも町内会だけではなくて、青少年部とか横の繋がりもあると思います。共通の回覧板ですとか、

そういうものに繋がると思うのですが、何か共同で、いくつかの町内会に渡った青少年部ですとか、その辺の可能性というのはあるのでしょうか。

○龍滝知佳委員

うちの隣の町内会がまったく活動していないので、「やるよ」と言っているのですが、ただその辺がお互いに「いいの？」みたいなどころがあるので、そこが連町などから、単町に「ちょっと子どもが少ないから、その辺の2～3個で一緒にやったら？なんならちょっとお金出すよ」というのがあると私も出やすいとか、その繋がりも作りやすいと思います。実際に、うちのラジオ体操も40人くらい来るのですが、うちの町内会からは3人くらいなのです。全部隣の町内会、隣の隣から来て景品貰って帰っていくので、やめたいと思うのですが。そういうのもあるので、もう子どもも少ないですから、そういう「集合青少年部」、「集合子ども会」とか、そういったところも促進していただくと非常にお互いにやりやすいかなと思うので、そこはやはり行政と連町の力添えが必要かと考えております。

○鈴木克典委員長

連町の少し役割みたいなものに関わってくる話ですね。うちの町内会も結構盆踊りが、隣の地区が非常に子どもが少なくてやれないので、うちに集まってきて、うちの町内会費でどうのこうのというのがあります。まあ、子どもだからいいだろうと、好意的に捉えているようです。

○山内睦夫委員

やはりそういうイベントは連町主体でこうやっていかないと無理ですよ。単町単町といいますけど、本当に無理ですから。お金についても、先ほど言ったように、ちゃんと出る仕組みもありますし。

○龍滝知佳委員

今年はいいただいたのですが、その間口が非常に狭くて、東区は2つの子ども会しか助成金を貰えないんですね、年に。今年も上手く入れたのですが、それが何個か集まったら出すよみたいなのがあったらいいなと思って。

○山内睦夫委員

ちょっと話の流れと違うのですが、聞きたいのですが。以前、平成21年にワークショップをやっていましたよね。そして今回。その内容と、今回というのはだいたい一緒の状態ですよ。だいたい中身は。町内会をどうするかということに関しては。

○小角市民自治推進室長

前のときにはどちらかというと参加促進の事例などについて出させていただきました。

○山内睦夫委員

どうやったら町内会にこう加入してもらえるかということで。このときの議論の結果はどういうふうにとまとまったのかと。

○小角市民自治推進室長

当時から参加促進をしていくためには、若い世代、あるいは集合住宅ですとか、こういう階層がなかなか入ってくれないし、特に集合住宅の場合にはオートロックなんかもあってアプローチがづらいというのがあります

○山内睦夫委員

だから、だいたい同じことをしゃべっているのですよね。だいたいが。

○小角市民自治推進室長

それで、その内容について「町内会活動のヒント」という冊子にまとめて、町内会に配布し、情報共有しました。それを受けて何をやっているのかというと、「町内会活動総合支援事業」という取組で、若者あるいは子育て世代にターゲットを絞った広報啓発だとか、不動産業界、引越し業界と連携した取組などをしてきました。もちろん加入率の低下に歯止めがかかっていないので、担い手の確保という問題も含めて、ここでご意見をいただきたい案件の大きな柱は、依然として加入を、あるいは担い手をどうやって確保する、参加の輪をどうやって広げるかということもあります。

それともう一つは、だんだん人口減少局面がきて、地域コミュニティそのものを、あるいは町内会の活動そのもの、機能そのものを維持していくということが難しくなりつつある中、その機能を維持するために、さらにどんなことをやっていく必要があるのかという。そこが今回の新しい部分かなと。

○山内睦夫委員

わかりました。

○鈴木克典委員長

その他に何かございますでしょうか。

○町田信一委員

これから未来に向かっていくわけですから、この担い手「人材の育成」、これは若い人というのはよくわかるのですよ。みんな年を取っていくわけですから。ですから、私は意欲のある人、そういう方は70歳でも80歳でもおられるので、そういう人をやはり、できるだけ活躍の場を与える、チャンスを与えてやると。それが私はよろしいのではないかと思うんです。ですから、とにかく長生きになるということになりますと、だいたい現役を離れてから非常に長いですよ、その期間は。そうしましたらやはり、認知症とかそういうような方でしたらこれはもちろん無理なのですが、若い人だけではなくて、そういう意欲のある高齢者を活用していくと。そうしないと下のほうばかり探したってこれは無理ですね。私はぜひ高齢の方でも意欲のある方。それにも焦点を当てていただきたい。そう思います。

○小角市民自治推進室長

おっしゃるとおりだと思います。今回公表した札幌市の中期実施計画見たら、アクションプランの中でも「生涯現役のまち」ということを言っておりまして、やはり、言ってみれば定年されたあとの人生というのがものすごく長いというわけですよ。一番大事なのは、そういった高齢の方を労り、サポートするだけではなくて、一番大事なのは、社会の中での自分の役割ということを持ち続けることが生きがいにもなるし、あるいは地域に出ていくことによって社会との関わりを維持するだとかということ。もちろんそれは必要だと思います。そういう意味では、もちろん高齢者の方が、もしかするとたまたまデータとして私どもが出したものが、加入率が若い方ほど低いということもあって。でも実際、ご高齢の方で参加されない方の問題も、若い方が参加されない問題も、実は共通しているのかもしれない。どちらも、どっぷり役員をやる、ヘビーな参加というのが重たく感じてしまうのでなかなか参加したくないという方が。特に、本当のご高齢の方ではなくて、定年退職、団塊の世代の方あたりからそういう傾向が割と強いといわれています。そうすると、話題とすべきことは、若い人をどうするだとか、子育て世代をどうするという

よりも、むしろそういう参加思考の世代を捉えて、もっとその、役員にどっぷり浸かるということではない参加。先ほど、龍滝委員のご提案にあった、若者が自らやりたいところを、例えば町内会としてはそれを実現する機会を提供してやることによって取り込めるのではないかと。そこにはいろいろなコストがかかるかもしれないので、行政としてはそういう若者の自発的なことを町内会として場を与えて支援するのだとしたら、そこに財源的な支援をするだとかというようなご提案もありました。たぶん、そういう仕組みだとかが必要ではないかというような議論が一つあるのかと。

○町田信一委員

これとちょっと外れるかも知れませんが、私はマンションの理事長を10年やっています、そしてずっとマンションの住人の人をそれなりにある程度は見てきております。うちのマンションなのですが、高齢者の見守りというのは、6年前からやっていることなのですが、75歳以上のお一人の方が、朝、管理室にインターフォンを入れることになっているのです。その方は、朝起きたら習慣として管理室にピンポンと数字を押していただけますと、それは管理室の親機に記録が残るのですよ。その意図は、見守るということではなくて、おひとりでお住いの方、高齢者の方、「私は今日も元気ですよ」と自分から積極的に行動を起こしていただくという意図なのです。ですから、それを立ち上げるときはいろいろと苦労がありました。組合としても、それはちょっとやりすぎかな、そこまでおせっかいかなというような気持ちもあったのですが、とりあえずは、見守るとか何かというようなことであるのであれば、それは万全ではないですね。逆にそういう方は、そのようなシステムでしっかりとサインを出していただくと、これは非常に万全です。ですから、6年の間に現在まで3回くらい、実際には連絡が入ってなくて、管理人がそこに行って調べたのですが、どうもおかしいなということで、その方が登録している緊急の連絡先に電話を入れまして、その方はマンションの合鍵を持っているんです。その方に連絡をしまして、その方が飛んでこられて、部屋の中を確認したらトイレの前で意識不明で倒れていたというような案件が3件ほどございました。このシステムで命を取り留めたということです。ですから、我々は高齢者を見守っていこうということも必要かも知れませんが、そうではなくて、みんな年取っていくのだから、逆に高齢者は「私は元気だよ」と何かそういうサインを向こうから出してもらうと。見守りもですね。何かそういう視点からいろいろ考えてはどうかと思うのですけどね。

○鈴木克典委員長

無理のない広い意味での参加の仕方ですよ。あとは、元気な高齢者の方もたくさんおりますので。

○町田信一委員

私は、これをやるときには、これやるとなったら一気にやらないと、いろんな情報が入ってきて、このシステムが構築されないのです。ですから、これをやるとしたらだいたい1か月から1か月半くらいでもって、ひとりひとりに話して、そのシステムを構築したのですが、ある80くらいの男性の方がこう言われたのです。「実は、俺は一人で、いつも寝るときに携帯電話を枕元に置いているのだ」と。ですから、自分に何かあったときにポンと押せば市内の娘のところに電話が入るように。「実は、私自身はそういうことやっています」と、ですから私はこれは余計なことかなと思いつつも、その話を聞いたときにはじめて「これは必要なことだな。やってよかったな」そう思いました。ですから、みんなで見守るというのは非常に大事なことなのですが、そ

うではなくて、そういう人たちに逆に自分自身から何かサインを出していただく。というのは、こういう行事にいろいろ参画していただくということになるのかなというふうには思うのです。

○鈴木克典委員長

見守りという言葉が適当かわかりませんが、さまざまなかたちがあると思いますので、そういう意味で良いご意見いただいたかと思います。あと、他の方のご意見もお伺いしたいのですけども。

○喜多洋子委員

先ほども話があったように、場所というのが一番必要なことなのではないかなと思います。人材もありますけど、人材とか活動とか連携とあるのですけど、やはり場所があることでいろんな人が集えたりとか、そこでいろんなことを把握できたりとか、サロンの話もありましたし、場所というのも必要なことなのかなというふうに思っています。

いま麻生では、子育てサロンもありますし、カフェもありますし、もう一つは学生と一緒にやっているショップのところでは、この間、介護相談ということをしたのですけど、やはりどこにも所属していない、マンションに住んでいる方なんですけどね。自分の100歳のお母さんを見ながら、その方も80歳ということで「お母さんのことは大丈夫だけど、今度私のことが心配になってきた」という話をされていて、やはり場所があることで、ちょっと気軽に行けていろいろな人と会えるということで、何か地域課題の解決に必要なことって、場所というのがあったらいいかなと思いますし、これみんな市民とか町内会とかいろんな団体とか事業所とか、いまバラバラにあるのを、じゃあこれは一体誰がコーディネートして繋げていくのかというのがいま一番課題なのかなと思っていて、その場所に誰かがいてとか、困っている人がいたりとか、町内会でもいろんな人、何かやりたいと思っている人もいますよ。だけど、その人がどのようにアクションしたらいいのかというのがわからなかったりするんで、そのコーディネート役みたいなことを一体誰が担うのか、もうちょっと工夫できないのかなというのをちょっと考えました。

○鈴木克典委員長

ありがとうございます。場所もありますかね。やはりハードとソフト両方ということですよ。

○喜多洋子委員

両方ですね。ただ場所があっても、人がいないと来ないのですよ。認知症の方もそうですし、何かオレンジカフェします、認知症の人来てくださいとやっているんですけど、絶対来ませんから。私、認知症じゃないからと言って。でもやっぱり、何か違う、楽しいイベントでお茶飲みますよみたいなかたちで、誰かがいる、誰かに話ができるということが大事。なので、ハードもソフトも両方必要だと思います。

○町田信一委員

場所は非常に大きな要因ですよ。ですから、うちの連町の山鼻の連町なのですが、24の単町なのですが、そこで活発な単町はセンターのそばなんです。いろんなかたちでそのセンターの会館を使います。ですから、活動が活発だとは言わないのですが、もちろん、それは会長さんが相当苦勞しておられてやっておられると思います。しかし、そこから離れますとなかなか難しいです。ですが、大きなマンションですと、集合場所がありますね。ですから、逆に町内会ではそういうようなところを使うようなことを考えられたらば。

○五十嵐秀子委員

そういうマンションもあることはわかっている、お願いに行きましたけど、そこはマンションの人だけのものということで。

○喜多洋子委員

使わせてくれない。ダメでした。うちも麻生でも、お母さんたちがそこを貸してくださいと言ったら、ある一定のマンションの住んでいる人じゃないとダメだし、他の人はダメだと。

○町田信一委員

それもわかりますけどね。私だったら貸しますけどね。

○鈴木克典委員長

その辺も上手く貸して差し上げるような仕組み作りとか、信頼関係ですとか、その辺もあると思いますので。

○飯田俊郎副委員長

いまの話と変わってくるのですが、私本当に加入率を上げたいと思っていて、そのための決め手って何かと考えていたのですが、子どもに対する町内会教育ですね。食育とか流行っていますけれども、町内会についてちゃんと教育するということが大事かなと。

そういうことを考えているときに、この「市民」とかあるのですが、ここにできたらもう一つ「学校」とかですね。それが「行政」とか「PTA」や「子育て」に入っているということかもしれないけど、独立させて、学校とか児童会館とか管理事務所があるような公園とか、そういうものをドンと置いて、そこを多世代交流の拠点にちゃんとしていくということが必要だと思います。

いまのお話、場所という話。だいたい上手くいっているところって、町内会館とまちセンと児童会館が一緒になっているところはどこでも元気ですよ。元気すぎて迷惑だといわれるくらい元気だったりするところもあるくらいで、そういういろんな世代の交流が生まれて、児童会館といいながら実際にはおじいちゃんたちがいっぱいいるような場所とかですね。そういうような場所を作って。

コミュニティスクールってこの頃話題になっているのですが、なかなか上手くいってなくて。学校の運営に地域の、町内会の人なんかも入って意見を言って、学校の方針を地域とすり合わせていこうという話なのですが、介入されると嫌だという学校側の拒否感なんかがあって上手くいかなかったりするので、お互いに、学校も町内会もお互い求めているのに一線を越えられていないみたいところがあって、そこを何か札幌スタイルのですね、学校が気にしているような人事権に介入されるとか組合潰しだとか、そんなことではないのだよという、防犯とか防災とか、いま言ったような町内会教育のためなんだということで、場所をしっかりと使わせてもらうようなあり方。「まこまる」とか面白いですが、学校が廃校になってからやっとそういうことが始まるという感じ。いまあるうちから空いている教室があればドンドン進めてほしいなと。

○町田信一委員

賛成ですよ。うちは山鼻小がそばにありますけど、あそこは使えないのですよね。いろいろうるさくて。

○龍滝知佳委員

でも学校も確かに人材不足で、クラブ一つも作れないような状況。子どもが少ないために教師

も少ないので、手が回らない。ホームページとかも直してほしいといったのですが、手が回りませんと、余計なことをこれ以上増やしたくないというのがやっぱり。

○飯田俊郎副委員長

それがある程度超えていくと、自立的に動いていって楽になるはずなのに、そこまでの間のめんどうくささで超えないうちに諦めちゃうという。

○龍滝知佳委員

でも、連携というか、本当に、何かやると言ったら全児童にチラシをうちの小学校は配ってくれるので、そういった協力はお互いにできていますけどね。全部の小学校ではないと思いますね。隣の小学校は玄関にちょっと置いておきますというくらいにしかご協力いただけなかったのですが。

○飯田俊郎副委員長

この前、子ども未来局の子どもまちづくりコンテストの審査員というのをやって、画期的に面白かったのが、川沿少年消防クラブというところで、消防団、子どもの消防団にお父さんお母さんも入っているんですね。あそこ前の9月11日の雷雨のときに札幌で479人しか逃げなかったうちの100人がそこなのですね。藻岩小学校に逃げていました。やっぱり子どもを動かすと親も動くし、地域も動くという証拠だと思っていて、そういうことをもっとどんどんいろいろな札幌スタイルを作って、学校に受け入れてもらえるようなかたちでやっていけたらと思います。

○喜多洋子委員

和光小学校なんかは、町内会の場所が学校にあります。町内会の人たちが、使わせてもらっているのです。しかし、地域の壱麻保存会の作品もそこに置いてくれたのだけど、先生方はそこにそういう壱麻保存会のものがあるというのを知らなかったのです。

○飯田俊郎副委員長

そういうの多いですよ。ミニ児童会館やっているけど先生は入ってこないとか。ここだけしかやっちゃダメとか場所を制限されて。

○喜多洋子委員

総合の時間に壱麻保存会で授業を1年間行って、私は講師で行くのですが、町内会の部屋があるので言ったら「知りませんでした」と。でも、町内会の方はそこを利用して町内会の管理をしているという場所なのです。

○龍滝知佳委員

札幌市から言っていただけのですか。学校の教室を開放してほしいみたいなこと。

○小角市民自治推進室長

学校の施設については、過去いろんな流れがあって、かつて学校地域開放ということで動いていた時代があります。ところが、ちょうどそれが進みかけたときに、大阪の池田小学校の事件でがらっと状況が変わって、むしろ子どもの安全を守るためにセキュリティを重視して、小学校の玄関に鍵がかかるようになってしまった。ただ、少しずつ地域と連携をするだとかということであれば、学校評議員制度だとか、ソフトの部分では少しずつ変わってきていて、文科省の小学校の補助金なんかについても、前は本当の純然たる学校施設じゃないとダメだったのが体育館の地域開放にはじまり、いまでは少しいろいろな方向で、多目的室も地域で使えるようにだとか、そういうことにも補助が一部当たるだとか動いてきています。

そこで、札幌がいま何しようとしているかということ、いま一番早いのは中央区の二条小学校で、学校にまちづくりセンター、それから地区会館といいますか、コミュニティ施設を建て替えて合わせて複合化していきましょう。そうすることによって、さらに、いまでは児童会館であったものも基本的には独立した離れた場所ではなくて、学校に児童会館も併設化して。

そうすると、子どもにとっては放課後、一度外を歩いていかななくてもダイレクトに行けるし、さらにそこに町内会の方ですとか老人クラブの方、あるいはいろんなサークルの方が来ることによって、多世代交流が割とやりやすくなるだろうということ、これは地域の意向を無視して一方的にやるわけにはいかないですし、またタイミング、あるいは小学校の位置にも区域の中でのバランスがあるので、基本的にはひとつひとつの地域とお話し合いをしながらですけども、大きな考え方としては、そういうようなかたちで、なるべくコミュニティ系の施設の機能というのは小学校に複合化していこうということでは動きは始めている。全部回るのはきっと数十年はかかるかなと思いますけども。

あと、子どもの町内会教育ということでは、いまは全ての小学校3年生に、町内会までいかななくても、まずは地域に関心を持ってもらおうということで、まちづくりに対する副読本を必ず配るようにしているほか、もう一歩進めて、全市、全部のまちセンで一気ににはできないのですが毎年4つ、5つくらいなのですが、夏休みのときに「子ども一日まちセン所長」ということで募って、一日所長に任命して、午前中は地域のいろいろな活動の場をレポートして、自分たちだったら住みよいまちにするためにはもっとこんなことをやるといいというような提案を資料にまとめて、午後に市長にプレゼンするだとかというようなことをやったりしています。中学校になると、去年は麻生地区でやりましたが、中学校と町内会、あるいはまち協との意見交換。地域がどんな動きをしているかということに目を向けてもらう。高校生くらいになると、生徒会やボランティア部みたいところで自立的に動いているところもあり、ここはもう実践のレベルですね。また、ここ数年、市立高校の生徒会の方が集まって、雪まつりのときにつどむ会場で運営ボランティアをやったりだとか、そういう教育を少しずつやりは始めているところではあります。

○鈴木克典委員長

最近、「オヤジの会」が、企業人でもありますし、また地域の住民でもあります。また、学校という意味ではPTAがありますが、やはりそれとは違ったかたちでオヤジも普段は出れないんだけど、お祭りで協力しようとか、子どもたちのために学校に留まっているのではなく、少し地域とも一緒になって、地域で育てるといいますか。そういったいろんな動きが出ています。

○小角市民自治推進室長

子育て世代の方って忙しいので、町内会の役員まではできないんだけど、イベントの手伝いくらいだったら、特に子ども関係のものだったら手伝えるよ、という単発での協力というのは、割と協力的なんですよ。そういう参加の形態というのをもっと広げていくというのはひとついいアプローチなのかなと思います。

○鈴木克典委員長

最初はやはり、町内会の方は警戒されるらしいんですね。何か企画とかそういうので町内会がぐちゃぐちゃになるのではないかという警戒をされていたようです。実は、信濃小学校のオヤジの会なのですが、素晴らしい方が多くて、入り込み方も「我々は別に入り込むつもりはありません」、「手伝ってほしいこと、足りないこと、それしかやりません」ということで協力し、それ

で信頼関係ができて、誤解が解けたみたいです。いまでは一緒になってやりましょうというかたちになっているようです。

○飯田俊郎副委員長

私はあそこのプレイパークを手伝いに行ったのですが、学校の先生とか、他の札幌じゃないまちの市の職員の方とかいるんですけども、信濃ってJRで行けば、すぐ他のまちと近いので、すごく活発ですね。オヤジの会というあなた達の後継者みたいな人たちがいっぱいいるよと、町内会に言うんだけど、なかなか近づいてきてくれないという。結構やる気のある若手の人がいるんですけどね。

○龍滝知佳委員

勝手にやらせちゃえばいいんじゃないんですか。

○鈴木克典委員長

ただやはり、変に入ってこられて、いままで私たちちゃんとやってるのに、何か乱されることが怖いというのがあるようです。

○飯田俊郎副委員長

学校と公園と児童会館くらいでワイワイやっている感じですね。町内会というのはまだ一線があるみたい。

○鈴木克典委員長

その辺も上手く繋がっていけばいいかなと思うんですけど。

○五十嵐秀子委員

町内会というものはやはり人間関係が重要視されますよね。声掛けをしないとなかなか新しい人が入っていただけない。お一人はなかなか入ってきません。また、やりますっていう人はちょっと警戒してしまう。

○鈴木克典委員長

やはりそういうイメージを持ってしまうということですね。

○五十嵐秀子委員

そうですね。やっぱり町内会の役員さんはどんどん声掛けをして人間関係を作っていくないと、役員は増えないですね。いろいろな単町を見ましても、やっぱりサロンをしていたり、声掛けをする人が誰かいれば、その町内会は結構役員さんも潤って、ちゃんと下もいるかなとは思っています。

○龍滝知佳委員

うちは2人増えて2人減りました。

○五十嵐秀子委員

できましたら、札幌市の職員が退職したら、もうちょっと町内会に目を向けていただいて、町内会に入っていたらありがたいなと思います。

○鈴木克典委員長

札幌市はそういう方、多いですよ、結構。

○小角市民自治推進室長

札幌市では定年退職をする前の説明会のときに町内会活動への啓発もしていますし、アンケートも取ったりしています。加入そのものでいうと9割くらいが入っています。そして、実際に役

員をやってますという人も結構いるのです。

○飯田俊郎副委員長

これ、先進地というか、比べるのとして横浜市とか、政令指定都市が出てくるんだけど、この話題に関しては、先進地は地方都市だと思うんですよ。もっと先に高齢化したような場所でどうやっているのかという。そういうところをみると、役所の人ってもう引き受けているんですね、どんどん。必ずしもいいとも思わないんだけど、本当に解散しそうな弱小の町内会のところに役所の人の方が会長になっているとか、そんな風景もよくあるので、もうちょっとそんな小さいまちの良い例を札幌市に取り入れるようなのもいいなと。

○喜多洋子委員

なんか島根の雲南市は、水道の検針を町内会に委託して、仕事として、それこそ町田さんが言っていたように、元気高齢者ですよ。元気高齢者が検針をしながら、針が止まっていたら中に入って安否確認するというようなことも仕事としてやっているというのもあるので、そういうことは生きがい作りにもなるし、地域のためにもなるしというのを仕組みとして何かできたらいいかなと思います。

○五十嵐秀子委員

札幌市では、広報の配布を町内会にお願いして、私たちもやらせてもらっていますが、それさえもできない町内会も出てきています。

○龍滝知佳委員

うちもすごくもめて。単町によっては「階段を登るのが大変で」と言う人と、「たまに歩くの好きだからいいよ」と言う人と。町内会によっても人数が全然違うから。

○喜多洋子委員

それってお金もらえるの？

○龍滝知佳委員

お金をもらってやるか、お金はもらえなくなるけど、負担が減るからやめるかで毎回もめて。

○五十嵐秀子委員

広報のことでちょっとお願いもあるのですけれども、連町で行う大きな行事ありますよね。冬まつりとか夏まつりのことは載せていただけるのですけれども、他の雪まつりだとか、クリスマス会だとか、そういう行事3つ、4つあるんですけども、そういうのを広報に載せていただけないものかなと。というのも、マンションなんかはほとんど回覧は回りません。若い方も子育て世帯もいるのですけども、そういうところには回覧が回らないので、私たちは回覧はきちっと回してますけども、そういうところに伝えるにはやはり広報かなという思いもありますので。

○小角市民自治推進室長

広報さっぽろの区版のところですか。

○五十嵐秀子委員

そうですね。載せていただけないものかなと思います。

○小角市民自治推進室長

市が協賛しているだとか、していないだとかによってもたぶん変わったりもするので。

○五十嵐秀子委員

一番最後にフォトアルバムってありますよね。それに、こういうのあったんだというのがあり

ますけど、事前に知っていたら、参加してみたいという方もいらっしゃると思いますので。

○龍滝知佳委員

「ふりっぱー」は載せてくれますよ。「ふりっぱー」という、ほぼ全家庭に配ってくれる、民間のフリーペーパー。うちはよく載せてもらってます。タダで載せてくれます。地域の「まちトピ」っていったって。

○小角市民自治推進室長

いずれにしても、町内会加入促進の観点から言うと、実は回覧板というのはあまり効果がないのです。当たり前なんです。だってそれってもう加入している人のところしか回らないので。

一方、入っていない人たちは、絶対に入りたくないという人ばかりではなくて、アンケートにもありましたけれども、意外に多いのは、「きっかけがない」とか、「どうしたら入れるのか」とか、「どんなことをやっているかわからないけど、自分が納得したら入りますよ」だとかという回答が多いですね。だとすると、いかに町内会活動を見えるようにするかというのが非常に大きな要素なんです。だから、そこを見えるようにするといったときに、どういう広報手法。いま五十嵐委員がおっしゃられたように、だったら市側がもうちょっと広報さっぼろの掲載要件を見直して、もっと積極的に地域活動を載せるべきというのがありますし、元々はエリア性をもっと小さいまちセン区域なのであれば、先ほどもお話であったまちセンの機能強化の中でもっとそういう地域に対する情報発信機能を強化するべきじゃないかだとか、あるいは我々もいま、NPOだとかも含めた情報システム整備する中で、リアルタイムなイベント情報を少し流し、それを町内会でも使えるようにしようということをやったりもしているので、そういうどうやって知らせるかということはいろいろ考えていく必要があるかなと。

実際に、単町さん自身の活動の中でも、自分のところの町内会は、この時期にはこんな行事をやっていて、お金の使い方も、こういう行事に会費をちゃんと使っているんですというオリジナルのリーフレットを作って、それを持って勧誘活動に行くだとかとやっているところもあつたりします。だから、情報提供は大事な要素かなと。

○龍滝知佳委員

やっぱり、インターネットが普及していますので、連町ごとでもホームページがあるといいなと。自分の地区を押したら町内会がピッと出てとか。

○山内睦夫委員

私のところはホームページにそれこそお金をかけてますし、それともう一つは地区の新聞を出しているわけですね。これも年に4回。地域の行事などを全部それに載せるんですね。それはやっぱり町内会に入っていない方でも見れるようなかたちでやってますから、こういう行事があるんだ、今月はこれがあるんだ、この先これがあるんだということは、ホームページもその新聞も見ただけであれば、分かるようになってます。ちゃんと編集委員もいますから。

○喜多洋子委員

それ連町でお金を出しているということですか。

○山内睦夫委員

もちろんそうです。やっぱりそこまでやっていかないと、なかなか情報が伝わらない。

○喜多洋子委員

麻生も全戸配布です。それまでは盆踊りはいつですかと、私が受付をやっていたNPOに電話

かかってくる。

○山内睦夫委員

実際そういうふうに私どももホームページだ、新聞だと出している、問い合わせの電話はきますから。「ホームページご覧になりましたか載ってるんですよ」「ごめんなさい。いつでした」と、そういうものなんだと。

○龍滝知佳委員

あとはフェイスブックですよ、やっぱり。札幌市はあるんですか。

○小角市民自治推進室長

フェイスブックでいいますと、観光とシティプロモートでさっぽろスマイルマークの普及のためのフェイスブック。あと、市長自身のフェイスブックがあります。

○龍滝知佳委員

ただ、先ほどまちづくりセンターの活用とお話があったのですが、私が普段活動をしていて、まちセンを知っている人に会ったことないです。

○飯田俊郎副委員長

学生も知らないです。まちづくりセンターってなんですか。

○龍滝知佳委員

知らないです。どこそれ、なにそれ、コピーできるのみたいな。安くお部屋も借りれるのって知らないんですよ。そこをどう周知していくかという、やっぱりいまはそういうSNSで、例えば実は元町まちづくりセンターが何時から何時までやっていて、コピーができますとか、そういうのがアップされれば、例えば私がシェアすれば何百人という人が見ていきますので、そういう感じで周知していかないのかなという気がするんですよ。

○飯田俊郎副委員長

清田区には、「マール清田」というのがあって、道新デジタルメディアさん、道新の子会社さんが作ってくれているんですよ。過去に遡っていくらでも情報が得られるので、去年どんなイベントだったかってわかる。今度厚別にもできたんです。実験的にやっていたらいいんですけど。

○龍滝知佳委員

それは厚別・清田方面だけですか。徐々に広がって来るんですか。

○飯田俊郎副委員長

いや、それは道新さんがどうするかですね。

○山内睦夫委員

道新で週に一回かな。南区、中央区とやってますでしょ。あれ私が提案したんですよ。もう少し地域のことも考えて、ちょっと広げて、全部を載せるのは大変だから、例えば中央区なら中央区、南区なら南区。何かイベントがあったら、こういうのがありました、こういう人がいましたと。もう少し広げたらどうですかということで、3年、4年前かな。

○喜多洋子委員

順番に来ますもんね。

○山内睦夫委員

次は南区とかね。やっぱりそういうことも、道新さんに協力してもらいながらやってはいるん

ですけれども。

○石村実委員

厚別区では、厚別と江別に「まんまる新聞」というフリーペーパーがあって、これが実は非常に広報誌として活用できるんですね。週に2回ほどなんだけど。これは、まちづくりセンターの行事であるとか、その地域の行事、いろんな行事を無料で情報提供。広告でなりたっていると新聞社がっていました。そういうのを活用している部分はかなりあります。ですから、住民の方はほとんどそれを見るわけですから、それを見て知るといような効果がある。

○山内睦夫委員

単町でも新聞出しているところもありますからね。

○飯田俊郎副委員長

「マアル清田」すごいですよ。

○喜多洋子委員

私も見ました。今度20日に、本当にまちづくりとか居場所づくりといううちの実家というのをやっている川田さんが新潟から来るんですけど、清田なんですよ。清田って検索したらマアルなんとなかって出て、なんだか会館の宣伝が出てたり。

○飯田俊郎副委員長

いま「きよたネーゼ」のコーナーっていうのもあって、女性の情報発信の場ができたり。

○喜多洋子委員

なんかすごいなって。

○鈴木克典委員長

これも企業とかさまざまなかたちの連携にも繋がりますよね。

○龍滝知佳委員

どこがやるかですよ。そこが連町なのか。個人に任せられるのか。

○飯田俊郎副委員長

ある程度プロじゃないと。

○町田信一委員

山内会長のお話を伺って、実際にホームページ、それから新聞その辺を発行されておられるという話なのですが、私自身は山鼻しか知らないんです。井の中の蛙。いろいろお話を伺って「あー」というふうに頷くのが多いんですけどね。こういう情報ってなかなか共有というのは難しいですよ。いま、札幌市の広報ですか。あれを読んでいる方って非常に多いですよ。さっきも話題になりましたけど。あの紙面をもう少し増やせないでしょうか。

○喜多洋子委員

町内会ページ作れないですか。

○鈴木克典委員長

その辺も、ちょっと予算などもあると思うのですが、この委員会を通じて、単に増やしてくれとかではなくて、いい形であり方を考えていきますとたぶん将来に繋がっていくと思います。

○小角市民自治推進室長

広報さっぽろの発行費は年間で6億8千万円くらい。道庁の広報誌がタブロイド版にしたように、将来的には、財政状況がより厳しくなるので、もっと整理できないのかというような議論が

一方ではあって、それを減らさないように持ちこたえるのに一生懸命だったというときが過去にはありました。最近はその議論してないようですが。

○喜多洋子委員

なんかもっと企業から広告取るとかいうことはできないですか。

○小角市民自治推進室長

少しずつやってはいます。

○山内睦夫委員

実際見る人は見ますね、広報さっぽろ。あれが無かったらかなり新聞頼みになりますよね。そういうことも聞いてますから、我々は一生懸命中身も見ていますよ。

○飯田俊郎副委員長

道新も危機感があって、広報さっぽろに負けてはいられないんですよ。マアル清田みたいなのを作って地域を味方にしようと。

○小角市民自治推進室長

あと広報さっぽろの場合、例えば1月号を出しますよね、そうしますと原稿の締め切りがひと月前。ところが地域行事ってそんなに早く決まなくて、割と近くになってようやく内容が決まってっていったときに、時間的な問題がなかなか反映しづらいというところがちょっとありますね。

○飯田俊郎副委員長

先ほど、室長がおっしゃった「一日まちセン所長」って面白いし、「一日町内会長」というのをどんどん出したら加入率が上がるのではないかと思うのですが。今週は何君とか。日直みたい。親も注目してくれて。

○喜多洋子委員

何か自主的にやるというのがすごくいいと思うんですね。うちの夫がこの間、町内会のことをやっていて、私は忙しくて参加できないので、うちの夫が関わっているのですが、公園ができたんですね。新しい公園で、私商店街の活性化事業もやっているので、麻生でテントあるんだよという話をしたら、これ借りられないのと言われて、貸してあげるよって、何に使うのって聞いたら、焼肉をみんなでしたらどうかというのを自分で提案したの。

そうしたら、みんなが賛同してくれて、やることになって、自分で提案したことは一生懸命やるんですよ。いつも会議に行って、やらされ感みたいなのがあるとなかなか難しいかなと。

○山内睦夫委員

いいですよそういう焼肉とか。まちの単位であちこちやっているじゃないですか。そういうようなことをやって広げていくというのが、飲んだら話がスムーズにいくからいいですよ。

○喜多洋子委員

麻生の町内会の会議って居酒屋でやるんですね。そして、何か手伝うと来年も呼べるよと言われて、喜多さんも何か手伝ったら来年も呼んであげるよと言われて、ちょっとグラグラっと。自主性と参加する動機みたいなのが楽しくできたらいいなと。

○鈴木克典委員長

そうですね。単にやってくださいというのはちょっとなかなかモチベーションに繋がらないですよ。

○飯田俊郎副委員長

オヤジの会って飲むのがセットで、飲んでばかりと批判されがちなんだけど、実は友達がほしいんですよ、地域のお父さんたちは。すごく一生懸命で自発的に来るし、一回はまると出ていかないんですよ。子どもが卒業してもずっといる人とかが出てきて。

で、子どもにアンケート取るんですよ。お父さん何が得意って。凧揚げとか、火をおこすのが得意だとか。子どもに「今度お父さんやってね」と頼まれると嫌って言わないですからお父さん。いつも出てこなかった人がわーっと出てくる。

○鈴木克典委員長

オヤジの背中を見せるチャンスですから。

○飯田俊郎副委員長

童心にかえって、子どもより楽しくなっちゃうというね。だから、子どもを使いながらどんどん親を巻き込んでいくと。女の人ってあれですよ。すごい子育てサロンとか小さいときは一生懸命やっているのに、幼稚園、保育園、小学校と入っていくとどんどん解散していっちゃうんですね。

○龍滝知佳委員

そうですね。やはり未就園児のお母さんが一番時間がないので、そういったものを作るんですけど、そうなったらそうなったで子どもがいない時間を楽しみましょうという会をやるので、そこはそこでまた段階を経て内容を変えて集客してます。

○飯田俊郎副委員長

保健師さんがついて、母親教室やって、友達になって、なんとか通信とか。

○龍滝知佳委員

あれ友達できないです。保健師さんに友達を作ってあげようという気がないので。

○飯田俊郎副委員長

うちはすごい激しくて、豊平の割と街中だったのですけども、余所者の転勤者とか、地元じゃないお母さんたちが多くて、おじいちゃんおばあちゃんに預けるようなところもないような人たちがお互いに集まって、子育てサロンをハシゴ。火曜日はあそこの児童会館で、水曜日はこっちだとかいって、僕も随分それを手伝っていたのですけれども、何十人という仲間がいて、通信作ったりいろいろなことをやっていたのに消えていくんですよ。保育園に入ったグループは繋がっているんですけども。せっかく出会ったのになという。

○龍滝知佳委員

グループだとそうかもしれませんね。

○鈴木克典委員長

盛り上がっている中、水を差すのも恐縮なのですがけれども、ちょっとまだ話し足りないという方やご意見がある方はいらっしゃいますか。

○五十嵐秀子委員

私の地域では、地域活動に参加するとポイントがもらえますという活動をしております。それで、いままで参加していない方のために実験段階なのですが、そういうことをしてますのでちょっとPRを。

○山内睦夫委員

ポイントを貯めるとどういような。

○五十嵐秀子委員

いろいろ当たるものがあるって、ウィズユーカードとかタラバガニとか。

○山内睦夫委員

それは町内会がお金を出しているんですか。

○五十嵐秀子委員

これはNPOさんがやっていますね。

○龍滝知佳委員

それは五十嵐委員の地域だけなんですか。

○五十嵐秀子委員

そうなんです。いま実験段階で。

○小角市民自治推進室長

それは、「まちのわ」のモデル事業ですよ。市が推進している地域ポイントについて、どうやったらさらに普及するだろうということを実験的にしています。

○山内睦夫委員

市からのお願いで入っているんですね。

○小角市民自治推進室長

そうです。

○鈴木克典委員長

まだまだ話し足りない方も多いかと思えますけども、後日、事務局のほうにお伝えいただいて、次回に繋げたいと思えますので、よろしく願いいたします。では、事務局にマイクお返ししたいと思えます。

2 閉会

○事務局（福澤市民自治推進課長）

それでは、若干ご連絡差し上げたいと思えます。

まず、途中にお話もありましたけれども、明後日ここ、かでの2・7で市民ワークショップがごございます。もし、お時間がございましたら見学などしていただければ幸いです。いまから資料をお配りいたしますけども、参加者にもお送りしておりますワークショップのしおりです。参考までにお持ちいただければと思えます。

また、合わせまして、先日11月の末頃に北海道新聞にも掲載されて、ご覧の方も多いかと思えますけども、現在「町内会アドバイザー」という取組を行っております。こちらのチラシですね。裏表に「町内会アドバイザー」と「町内会担い手育成塾」というものがごございます。その事業につきまして、紙面で紹介をいただいたところなのですが、時期がちょうど前回の検討委員会のあとになっておりまして、みなさまにご案内することができなかったものですから、申し訳なく思っております。このような町内会の活動をサポートする取組も札幌市では行っているところでもあります。

なお、今回のコミュニティ検討委員会では、個々の市の取組について評価をしていただくというよりは、今後のコミュニティのあり方や役割、それを支える大きな仕組みなど広い視点で議論

していただければと思っておりますけれども、このような関連する事業につきましては、ぜひ情報提供をしていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に次回の会議ですけれども、1月下旬から2月中旬くらいに調整できればと考えております。担当の者からまた日程調整をさせていただきますけれども、年始ということもありまして、お忙しいこととは存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。私のほうからは以上です。

○鈴木克典委員長

それでは、その他に何かございませんでしょうか。それでは、これをもちまして、さっぽろ地域コミュニティ検討委員会の第2回の会議を終了させていただきます。みなさま活発なご議論ありがとうございました。